

序、あるいは『親愛なる読者諸君！』に代えて



19世紀に書かれた小説というのは、よく読者への呼びかけから始まります。ちょっと正直すぎますが、読んでもらいたいという思いは伝わってきます。

筆者が今そうやって呼びかけないのは、何も「親愛なる読者皆さん！」がダサいからではなく、その必要がないからです。このマニュアルを開いたあなたは、もはや単なる読者ではありません。『破滅派』同人と呼んでもいいでしょう。それが嫌だという人は、すぐにこの文書を閉じ、立ち去った方が安全です。「触らぬ紙にたたりなし」というぐらいですから(PDFだけど)。

それでも立ち去らずにこの文書を読み続けているあなた。ようこそ。

この文書はweb文芸誌『破滅派』に参加するにあたり、大事な指針となります。ちょっと面倒な長さですが、がんばって読み終わってください。『破滅派』に参加するにあたって大事なことは、ここにほとんど書かれています。

『破滅派』とかいって、細けーことってんじゃねー。

そう思われたあなた。ちょっと待ってください。ここに書かれた内容が『破滅派』への投稿にしか役立たないとは思えなけれ。しごくまっとうな約束事が書かれているので、将来的に役立つこともあるかと思われま。とくにあなたが文学賞へ投稿をしていたり、ライターを志望していたり、なんかよくわかんないけど担当編集者に干されていたりしたとき、ここに書かれた文章が一助となることもあるでしょう。文筆業に限らず、小うるさい上司が提出した報告書になにかとケチをつけてくるときなど、思わぬところで役立つこともあるやもしれません。

この文書は三部構成になっています。扱う内容は以下のとおりです。

- 1、web上における著作権について
- 2、web上で長い文章を読ませるための工夫
- 3、書くための約束事と小説技法

なお、この文書は改編を重ねていく予定でして、暫定版です。特にレイアウトに関しては、使用アプリケーションが Microsoft Word から Adobe InDesign への乗り換えを予定しているため、大幅な変更が予想されます。その点、ご了承いただければ幸いです。

それでは、次ページより本文に入ります。



I 娼婦と処女のあいだ

インターネットにおける著作権について



web文芸詩『破滅派』はネットに接続する環境がある人なら、誰でも読むことができます。となると当然、誰でもコピーができます。皆さんがもっとも心配しているのは、この点ではないでしょうか。

でも、恐れることはありません。人のものをパクるような奴はおうおうにして才能がなく、大した物は書けないでしょう。そんなまがいものは世界の片隅でひっそりと消費され、姿を消すに決まっています。

その逆に、パクった奴が何かの拍子でお金をもうけたり、有名になったりした場合も心配しないで大丈夫です。ついでに引き上げてもらうぐらいのつもりでいましょう。広告費みたいなものだと思えばよいかと。

端的に言って、自らの著作権というものに対して、我々は「娼婦」のように振舞うべきなのです。正式なやり方で取り上げてくれるなら、誰も拒まない。しかし、あまりにもズーズーしい輩に対しては、それなりに強い態度で臨む必要がありますし、『破滅派』編集部はそのための助力を惜しみません¹。

ここで問題としなくてはならないのは、著作権を犯されることよりも、他人の著作権をうっかり犯してしまうことです。

あなたは本を読んだとき、「引用」というものにお目にかかったことがあるでしょうか。論文などでは脚注がつき、hametuha 《*between bitch and virgin*》 2007、pp1-2 という具合に参照が示されるのが普通です。引用のルールは簡単に示すと、以下の通りです。

- 1、カッコ、行アキなどで区切り、引用であることを明示する。
- 2、引用元を明らかにする。

正式な引用の具体例としては、『破滅派』002号所収の『国歌の花道』（太郎次郎ゴロー）を見ていただくとわかりやすいかと思われます。一番大事なのは「引用元」を明か

¹ この件に関してはサイト内の「著作権について」を参照してください。

すこと。そうしないと、「盗用」ということになってしまいます。

が、『国歌の花道』の場合、評論文だから話が早いのであって、うっかりが生じるケースとは、小説・随筆などの場合です。もっとも想定されるのは、登場人物にアフォーリズムを語らせる場合ではないでしょうか。

たとえば、「今起きている事件の正しい見方というのは、それが過去になってようやくわかるものだ」という発言を登場人物にさせたい場合、ヘーゲルの言葉を引いて、『ミネルヴァのフクロウは夕闇に飛び立つ』と語らせたとします。こうすることによって、その登場人物が知的であるような印象をもたらすことができるし、また、なんとなくカッコいいです。

こうして引用はしてみたわけですが、筆者はヘーゲルのどの本に書いてあるのかさっぱり忘れてしまったため、引用元を明かせません。でも問題はありません。その理由は、ヘーゲルの死後 50 年が経過し、著作権が切れているためです。訳者の著作権が残っている場合(日本は 50 年、各国により違いがあります)は「盗用」になってしまいますが、『ミネルヴァのフクロウは夕闇に飛び立つ』はうろおぼえのため、たぶん大丈夫です²。

なんとも曖昧な言い方ですが、これはすなわち著作権の現状を示しています。皆さんがこれまでに読んだ小説の中できちんとした引用を見たことは少ないのではないのでしょうか。引用をしながら巻末に参考文献として挙げていなかったり、引用それ自体がうろ覚えであったり……。

じゃあ、『破滅派』だってそんな感じでいいじゃないか。

皆さんの中にはそんな暴れん坊將軍もいるかもしれませんが、そこは一つ我慢していただきたい。というのも、『破滅派』がいい加減な「引用」で他人の著作権を踏みにじた場合、こちらが同じ目に遭ったときに反論できなくなる(あるいは、反論の説得力がなくなる)恐れがあります。

よって、『破滅派』に参加していただくあなたには、以下のガイドラインの遵守をお願いします。「処女」のように守り抜いてください。

- 1、著作権の切れていない作品に関しては、引用元を明示する。どこに書いてあるか忘れた場合、最悪でも書名ぐらいは挙げる。また、翻訳作品は訳者の著作権にも注意する。
- 2、歌詞は引用しない。ほとんどの歌詩には権利管理団体があり、とくにJASRACはうるさい。許可を受ければ引用は可能だが、お金をたくさん取られるので、現

² ほんとはGeorg Wilhelm Friedrich Hegel 《*Grundlinien der Philosophie des Rechts*》 1821

状では不可能である。

- 3、ウェブサイトからの引用も著作と同様に扱う。インターネット環境というのは、安易なコピー＆ペーストが横行している。あれは単にバレていないだけで、立派な違法行為である。ぜひ注意していただきたい。

以上、差し出がましいようですが、著作権に関する注意事項を説明させていただきました。

なお、筆者の私見ですが、引用はむやみに行わないほうがいいと思います。もちろん、引用を多用したポストモダンな小説もあるにはありますが(大江健三郎『懐かしい年への手紙』講談社文芸文庫 1992)、引用を主軸にすえた作品を書くのは大家になってからの方がいいでしょう。アマチュアの書くほとんどの引用は「決めゼリフ」として使われます。「決めゼリフ」なら、なおさら自分で考えるべきです。他人の考えた文章を拝借する癖がつくと、自分の筆力が身につきません。言葉とはそもそも借り物ですが、せめて自分なりのアレンジぐらい加えようではありませんか。

前述した三点をしっかりと守れば、あなたも立派な『破滅派』同人です。守るときは娼婦のように、攻めるときは処女のように。二つの顔を使い分け、人々を魅了する素敵な文芸誌を作ろうではありませんか。



II ノッペラボーは悲しいときにどんな顔をするか？

web上で長い文章を読ませるための工夫

あなたが日常的にインターネットを利用しているなら、フラッシュアニメや動画などを見慣れていることでしょう。web上における表現技法は多様化の一途をたどり、できることはどんどん増えています。素人でも、少し勉強すればそれなりのことができちゃいます。

で、皆さんの見ている『破滅派』はどうでしょうか。シンプルです。これでもかというぐらいシンプルです。

そもそも、レイアウトの世界において、テキストのみでなりたつ小説などは難しいといわれ



ています。なぜか。それは、わかりやすい工夫というものが存在しないからです。本章においては、この工夫についての理解を助ける説明したいと思います。

【用紙サイズ】

『破滅派』では3種類の形式を用意しています。

1、A4サイズのダウンロード印刷用

これに関しては疑問はないでしょう。もっともよく消費されているサイズです。ほとんどの文学賞もA4での応募を義務づけており、だいたい40字×30～35行、400字詰め原稿用紙に換算して3枚程度です。通常の文庫本が1pあたり38字×16行であることを考えると、見開き1pと同じぐらいだと考えればよいでしょう。

2、web閲覧用

横680×縦520ピクセル、つまり約18×14センチです。字数は26字×18行、400字詰め原稿用紙とほとんど同じです。皆さんの中には小さいと思われる方もいるでしょうが、このサイズになったのにはそれなりの訳があります。

というのも、字ポイントを下げればもっと字数を稼げるのですが、ディスプレイが小さい上に目の悪い人は大変見にくくなってしまいます。また、世の中には小さいサイズのブラウザで見ている人もけっこういて、あまり大きなサイズにしてしまうとブラウザに入りきらないのです。そういう人は画面をスクロールバーで横に動かして見ることになるのですが、これがまた死ぬほどメンドクさい。縦スクロールさせる機能は大体のポインティング・デバイス(マウス・タッチパッド)についていますが、横スクロール機能がついているものはあまりありません。そうした諸事情を勘案し、少しでも多くの人に快適に見てもらうため、このサイズになりました。

3、携帯用

ほとんど知られていませんが、『破滅派』には携帯版があります³。現在はPC版の補助的役割ですが、こちらもどんどん拡充していく予定です。

携帯電話のディスプレイという制約上、画面はとても小さいです。文字数は機種にもよりますが、せいぜい20字×10行程度ではないでしょうか。メールを読むのとほとんど同じです。

ちなみに、QRコードは次ページに。

³ <http://hametuha.jpn.org/hametuha/mobile/>



【フォント】

フォントは縦書きだと明朝系、横書きは明朝系かゴシック系、字ポイントは12ptに統一しています。フォントに凝りたいというのもわからないではありませんが、皆さんの中で特に小説や詩を書かれる方は、そうした個性的表現はなるべく避け、文章の内容だけで勝負してください。

これにはいくつか理由があります。最優先として挙げられるのは、「統一性がなくなるから」です。なるほど、編集に携わる人間はさまざま書体にこだわります。英数字はガラモンドで、平仮名はリュウミンで、漢字はモリサワで……。それはそれで創作行為の一つですが、同人一人一人がこだわりだすとシツチャカメツチャカになってしまうので、ご遠慮願います。メールのやり取りなどの手続きが煩雑になりますし、なにより、一つのwebサイトの中にいくつもの書体が入り混じっているのは、素人臭く見える一因となってしまいます。フォントはエディトリアルデザインの一貫として、編集部が一括して決める方が、お互いの労力も少なくすむと思われまので、なにとぞご了承のほどお願いします。

もちろん、『破滅派』編集部として、自分たちの意見が絶対だと思っているわけではありません。皆さんの中にフォントに対して一家言あるという方がおられたら、ぜひメールにてご意見いただきたいです。そして、余力があるのならば、エディトリアルデザインに携わってください。

【目休め】

こういった専門用語があるのかどうか知りませんが、一枚の紙の中に余白があるのは大事です。ページあたりの文字が少ない本というものは、「スカスカ」の汚名を着させられることが多く、内容まで「スカスカ」であることが多いのですが、それにもかかわらずそういった本が世の中に溢れているのは、ただ一つの美点「読みやすさ」を備えているからです。

たとえば、携帯小説。本を読みなれている方は、『Deep Love』などをはじめて見たとき、「なんじゃこりや！」と思われたはず。今日日の若者はこんなものしか読まないのかと、日本文学の行く末を憂えた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

しかしながら、流行っているものにはそれなりに長所があります。ぜひ以下を見比べてください。

改行あり

ことも。
 だが、私はすぐに立ち直った！ 新たな趣味を見つけたのである。
 季節はちょうど夏、セミの抜け殻を集めるにはうってつけの季節である。私は長野の山奥に入り、地面を這いずり回った。「なにをしているんですか？」
 山中で私に話しかけたのは糸石ゲサトであった。
 「いや、ちょっとセミの抜け殻を……」
 「ほお、奇遇ですな。私も徳川の埋蔵金を探していたんですよ」
 「いや、私が探しているのはセミの抜け殻で……」

改行なし

私はその頃、卓球にはまっていた。あの玉を打つ音に見入られ、毎日のように卓球場へ足を運んだ。ところが、半年ほどたった頃だろうか、その卓球場が潰れてしまったのである。私は絶望した。もう卓球はできないのか！ あのカコンという軽快な音を聞くことはもう二度とないのか！ 私はラケットバッグを握り締め、工事予定日を告げる看板の前で絶望していた。とどこどころかすれたマジックの跡は、卓球場の過去を何一つ告げはしない。あの胡散臭いヒゲ面の店主のことも、毎日来ていた無職のカットマンのことも、近所のスポーツ店からパクって来たリムバーを百円引きで売ることを生業としていた子供の

内容は無視するとして、読みやすさは明らかに左の「改行あり」でしょう。一つの段落でズラーツと続けると、大変読みにくくなってしまいます。これが行き過ぎると、内容がどんなに素晴らしくても「疲れる」というただそれだけの理由で、読まれなくなってしまいます。それはガルシア＝マルケスの例を見ても明らかです。『族長の秋』(集英社文庫 1994)は、『百年の孤独』(新潮社 1999)と並ぶ傑作であるにもかかわらず、長い間絶版でした(2007年に新潮社より復刊予定)。実際にその作品を読み、その文学的価値を認めている筆者も、その一因が「作中に改行が一回もない」ことにあると見ています。二段組で改行が一度もないと、目まいがしますから。

こうしたことを避けるには、Microsoft Word などのワープロソフトでページ設定を「web 閲覧用」と同じ 26 字×18 行にしてみるとわかりやすいです。ギッチリつまっていたら、改行の余地あり、です。

特に、携帯小説の世界では1文ごとの改行が当たり前となっているため、「ちょっとスカスカすぎて江國○織みたいだな」ぐらいがちょうどいいと思われまます。細かく章分けするのも一つの手です⁴。

【画像】

PCの発達により、画像を入れるのはとても簡単になりました。これは前述の「目休め」

⁴ 章分けしたあとは、ちゃんと3行アキにしましょう。

の効果もあり、いいのではないかという意見もありますが、問題点としましては、「携帯版には気安く使えない」というのがあります。

基本的には画像を使わない方針ですので、皆さんの中でどうしても画像を使いたいというアート志向の方がいらっしゃったら、執筆前に相談してください。ファイル形式・サイズなど、細かい点のすりあわせをさせていただきます。

以下、事前に了解しておいていただきたい点を挙げておきます。

避けていただきたいのは、ワープロソフトの配置機能を使って貼り付けることです。なぜというに、『破滅派』では3種類のフォーマットを用意しているため、貼り付けた絵はズレるに決まっているからです。きちんと配置したつもりでも、印刷時の余白設定などによっては、画像の端っこが切れたりもします。

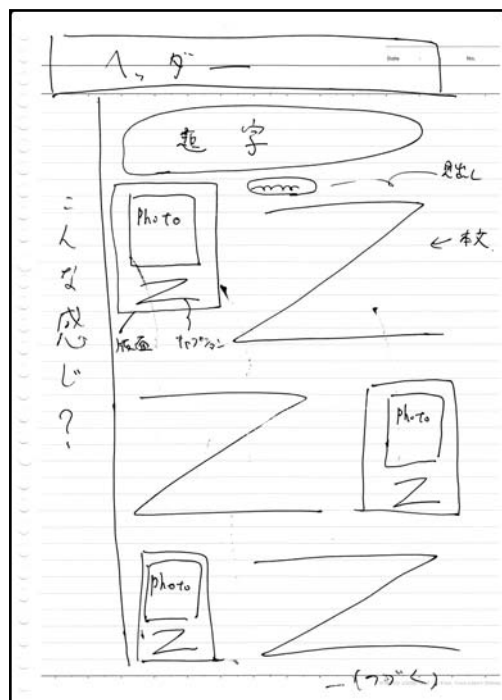
よって、画像を配置したいという方は、「この場所に配置したい！」という右図のようなラフの作成をお願いします。

また、各フォーマットに合わせて配置する必要があるため、本文はテキスト形式のファイルに、画像は Jpeg・GIF などの汎用性のあるファイルにして入稿してください。

当然、携帯版では画像を画面いっぱいに表示する必要があるのですが、ラフどおりというわけにはいきません。細かい絵はつぶれてしまうので、その点、ご理解ください。文字の位置と画像が連動したような作品は、携帯版に受け入れられないということにもなります。

以上に挙げたいいくつかの点の他に、レイアウト上の工夫というものはありえます。ただ、「動画を使う」「ハイパーリンクで色々飛べるようにする」などのwebに依存した機能については、一度ご相談を頂きたいです。

とりもなおさず『破滅派』はweb文芸誌を標榜しています。ノッペリとした字だけのサイトでも、ちょっとした工夫で色んな表情を持つことができます。『破滅派』は「文字を読ませること」に根っこを持っているので、その点ご賛同いただければ幸いです。



Ⅲ 私家版・小説の技法

書くための約束事と小説技法

小説の書き方本にはあまり載っていないのではないかとと思われる内容をここでは説明します。皆さんの中には「当たり前じゃん」と思う方もいらっしゃるでしょうが、そこはどうかお付き合いください。

まず、小説としての作品のよしあし以前に、やってはいけないことというのがいくつかあります。これをきちんと守らないと、特に普段から本に親しんでいる読者に「やっちゃった！」と思われてしまいます。

【約物】

カギカッコや句読点などの「字以外の記号」を総称して「やくもの」と呼びます。おそらく、ライターの仕事や正式な論文を執筆した経験のない方は、なじみもないため、正しい使い方がわからないのではないのでしょうか。〈山カッコ〉や《二重山カッコ》、〔亀甲カッコ〕などの使い分けはけっこういい加減ですが、それぞれ役割の違いがあります⁵。

もっとも、よく見るケースは？（疑問符）と！（感嘆符）のあとで一字空けをしていない場合⁶。三点リーダー（…）とダッシュ（—）を一つしかつなげていないケースもよくあります。これは必ず二つ連続で続けることになっています。

三点リーダーをナカグロ（・）が三つ続いたものだと思っている方も散見されますが、これは間違いです。三点リーダーは句点（。）を三つつなげて変換すると出てきます。これは全角一文字分ですが、ナカグロ三つだと、半角でも全角1.5になってしまいます。つまり、文字量が違うのです。ダッシュと長音（ー）、ハイフン（-）も間違えやすいので注意してください。

【文字の配置】

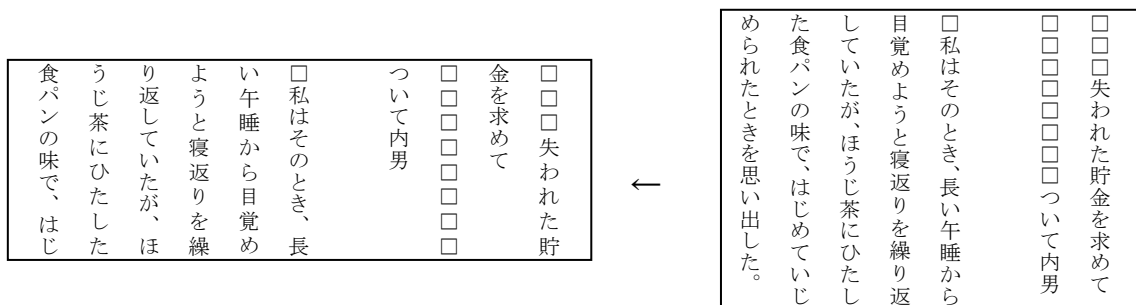
よく見られるのは、下揃えにするためにスペースでインデント下げを行っているケースです。これは見かけ上は正しく見えますが、他のフォーマットに映した瞬間、場所が代わってしまいます。これに関しては、次ページの図を参照してください。

また、改行後の1字サゲにも注意が必要です。Microsoft Wordなどのアプリケーションは、エンターを押すと自動で1字サゲになりますが、これは他のアプリケーションには反

⁵ 〈〉は横組文字用、《》は横組の作品名、引用文、カッコ内カッコ用。〔〕は引用文中に引用者の意見を入れるときなど。ここが参考になります。〈<http://www.japanlink.co.jp/dtpjiten/index.html>〉

⁶ この文では一字空けをしていますが、それは約物である？と（が連続しているためです。

映されません。ツール→オプションなどで「改行後自動で1字アキにする」という機能ははずし、手動でスペースを挿入することが求められます。改行後に自分で一字サゲをする癖をつけないと、カギカッコでの会話文のあとが一字サゲになりません。Word の自動一字サゲは前段落の設定が引き継がれるためです。



PCが発達し、ディスプレイの解像度が上がったとはいえ、一つの文章を網羅的に見る方法としては、まだ紙媒体に一日の長があります。一度紙に印刷し、赤で訂正しながら読んでいくことは、推敲作業において基本のキです。

また、友人などに読んでもらうのも一つの手です。他人の視点が入ることで、新たな発見があるかもしれませんし。

【会話体】

これは内容にかかわってくることなので、それほど求めるわけではありませんが、会話を多くすることは読みやすくするコツでもあります。以下を参照してください。

<p>「私ね、こないだ猫拾ったの。すごい綺麗な目してるの」</p> <p>「私より？」</p> <p>「うん。バチ子も綺麗だけど、それよりもっと」</p> <p>「ふうん」</p> <p>バチ子はずまらなそうに呟くと、なにかを探すように視線を巡らせた。</p> <p>「吸う？」</p> <p>私はセーラムの箱を取り、差し出した。そこから煙草を一本抜いていくバチ子の指は、ところどころささく</p>	<p>私はバチ子に猫を拾ったという話をした。その猫の目が綺麗だと付け加えると、バチ子は少し対抗意識を燃やしてみたかったけれど、やっぱり私は気が弱いから、そんな風に比較したことが悪かったのかな、などと気に病んでしまう。バチ子はとてもつまらなそうに見えた。もしかしたら、煙草を探しているのかもしれないと思い、私はさつき彼女をおとしめたことを詫びるような気持ちで、セーラムの箱を差し出した。そこから煙草を取る彼女の指はところどころささくれていて、なんだかそれが痛ましかった。</p>
---	--

以上の文章は、同一の場面ですが、語られている内容はほとんど一緒です。ただ、左は会話、右は地の文が主となっています。こうした違いについて、好みの差もあるでしょうが、左の方が多くの読者に受け入れられるというのはほとんど黄金律です。そもそもこの内容がつまらない、という批判は聞かないことにおきましょう。

皆さんはテレビを見るでしょうか。最近、クイズのバツゲームなどで、「負けた人は料理を食べられない」というのがすごく多いですね。なんでこんなものが、と思う向きもあるでしょうが、あの場面は必ず視聴率が上がるらしいです。芸能人が「おいしい！」とか「口の中で融けた！」とか言っているのを沢山の人が見たがっていると思うのは、末恐ろしいことではありますが、これは統計的事実らしいです。

文章でも同じことが言えるでしょう。恐ろしいかな、会話が好きな人は絶対的に多いの

です¹⁰。創作上、なんとしても譲れないというのであれば、会話を増やすことをオススメします。

また、単純に技術的問題として、内面描写の方が書きやすいため、慣れていないと内面描写ばかりしてしまうということもあります。かといって、物語の展開を内面描写にばかり託してしまうと、なんだか「昨日見た夢の話」を聞かされているような印象が生まれてしまいます。小説を読み進めるためのモチベーションを語り手の独白にばかり託すのではなく、登場人物の会話や何気ない情景描写などに織り交ぜることは、古典的ですが、いまだ有効な技術です。

【ルビ】

ルビに関しては、少し扱いが難しくなります。無意味に難しい漢字は使わないにこしたことはないのですが、ルビはダブルミーニングを可能にする日本語表記法の財産であり、色々面白い遊びができるツールでもあります。他人に(ひと)というルビを振るなどはどうでもいい遊びですが、思わぬ発見もありうるため、一様に禁止はしません。

現状では、レイアウトの元となるソフトがMicrosoft Wordであるため、同じアプリケーションの方は問題ありません。違うアプリケーションをお使いの方は、一度ご相談いただくと、対応がスムーズにいくと思われます。

【登場人物の数】

これはとても大きなお世話かもしれませんが、書きなれている方でないかぎり、登場人物の数はあまり増やさないほうがよいと思われます。というのも、はじめて登場した人物を書くのは楽であり、楽しいんです。が、セレブなパーティー小説を書くのでないかぎり、いつまでも「新しい人物の登場」という展開でもたせるわけにもいかず、いつかその人物たちを展開させていかなければならなくなります。

以下は筆者の経験ですが、「思いつきで書いた」登場人物の場合、その後に活かすのが難しいです。展開が苦しくなると、新しいキャラを出すのは、『少年ジャンプ』で連載が終わりかけている漫画(後ろから3番目ぐらいのやつ)によくあるパターンです。筆者は必ずしもキャラクター小説をよしとしまませんが、無意味に登場人物を増やすぐらいなら、少ない人数をじっくり書いた方が今後のためになるでしょう。はじめて書かれる方は、5人以内にとどめておくのが吉です。

【改行・行アキについて】

上述したように、『破滅派』では改行・行アキを奨励してます。しかし、これは実のところ、

¹⁰ これは会話を多くすることの副産物ですが、結果的に余白が多くなります。

諸刃の剣です。改行・行アキが奨励される理由が、『破滅派』がweb文芸誌であること
によって発生した制約によることを忘れないでください。

下手クソなDJは、カットイン・カットアウト¹¹をよく使います。つながりとかを考えなくても
済むからでしょう。1行アキ後に全然違う場面を展開する手法は、たしかにインパクトが
あり、それはそれでいいのですが、皆さんの将来性を考えると、そればかりに頼らない方
がよいでしょう。改行してしまえばそれが目印となり、読者は「ああ、ここで大きく変わるん
だな」とわかってくれますが、場面転換にもそれなりに技術はあります。安易に改行に頼
っていると、「1行アキ→変なマークをつけて3行アキ→章をたくさん設ける→部をたくさ
ん設ける→連作短編しか書けなくなる」というパターンに落ち入るので、気をつけてくださ
い。

以上で小説の技法についての解説を終わります。

同人の皆さんは専業作家を目指す筆者にとってライバルですが、筆者は皆さんが素
晴らしい作家となることを切に願っています。ここに挙げたことは一つの意見として受け
止め、頭の片隅にでもおいていただければそれでもう充分です。

早い話が、「カッコの形なんざどうでもいいから、面白いのを待っている」の一語に尽き
ます。



結語、あるいは前言撤回

ここまで読んでくれた皆さん。皆さんはかなりのやる気があると見えます。すでにして免
許皆伝とさえいいたいところです。ルールを守るのは以上で充分。あとは執筆に邁進し
てください。

最後に付け加えるとすれば、こうしたマニュアルをぶち破るほどの作品を物してほしい
です。ルールはいつだって、破られることを待っています。

文責・高橋文樹

2007/4/10

¹¹ 曲のリズムだけ合わせておいて、いきなりブツッと次の曲に移ること。